

2008年3月期 第3四半期 決算概要

2008年1月28日

NECエレクトロニクス株式会社

執行役員 CFO 佐藤 博

<http://www.necel.com/ir/ja/>

I. 2008年3月期 第3四半期 業績概要

- ✓ 着実な固定費削減により、第2四半期に引続き営業黒字を確保

II. 2008年3月期 通期 業績見通し

- ✓ 第4四半期は半導体需要が弱含むリスクあるが、
下期での営業黒字を最低限として、引続き業績改善を目指す
- ✓ 現時点では年間業績予想を据置く

I . 2008年3月期 第3四半期 業績概要

II . 2008年3月期 通期 業績見通し

業績サマリ

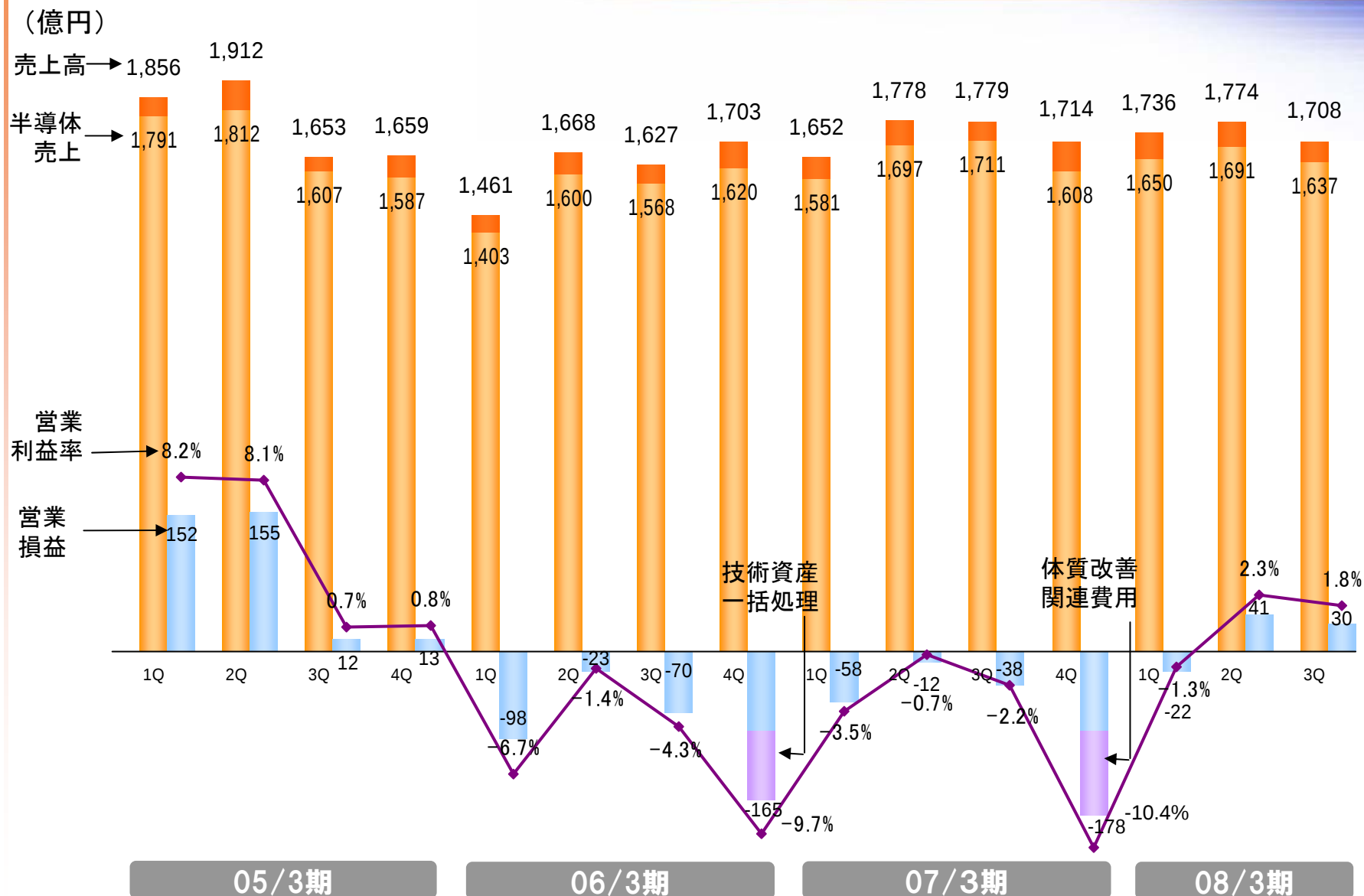
NEC

(単位:億円)	08/3期				
	3Q, 12/31			9ヶ月累計	
	実績	前年同期比	前四半期比	実績	前年同期比
売上高	1,708	△71	△66	5,218	+9
半導体売上	1,637	△74	△54	4,978	△11
営業利益	30	+68	△11	49	+156
税前利益	16	+51	+3	35	+126
当期純損益	△9	+48	+8	△40	+92
フリーキャッシュフロー	△10	+66	△172	93	+34
D/Eレシオ	0.51倍	-	-	-	-
株主資本比率	38.8%	-	-	-	-
為替レート	1US\$=114円 1Euro=163円	対US\$ 4円高 対Euro 13円安	対US\$ 6円高 対Euro -	1US\$=118円 1Euro=162円	対US\$ 2円安 対Euro 16円安

注: 当社は米国会計基準を採用しておりますが、「営業利益」は売上高から売上原価、研究開発費、販売費および一般管理費を差し引いたものです。

四半期別業績推移

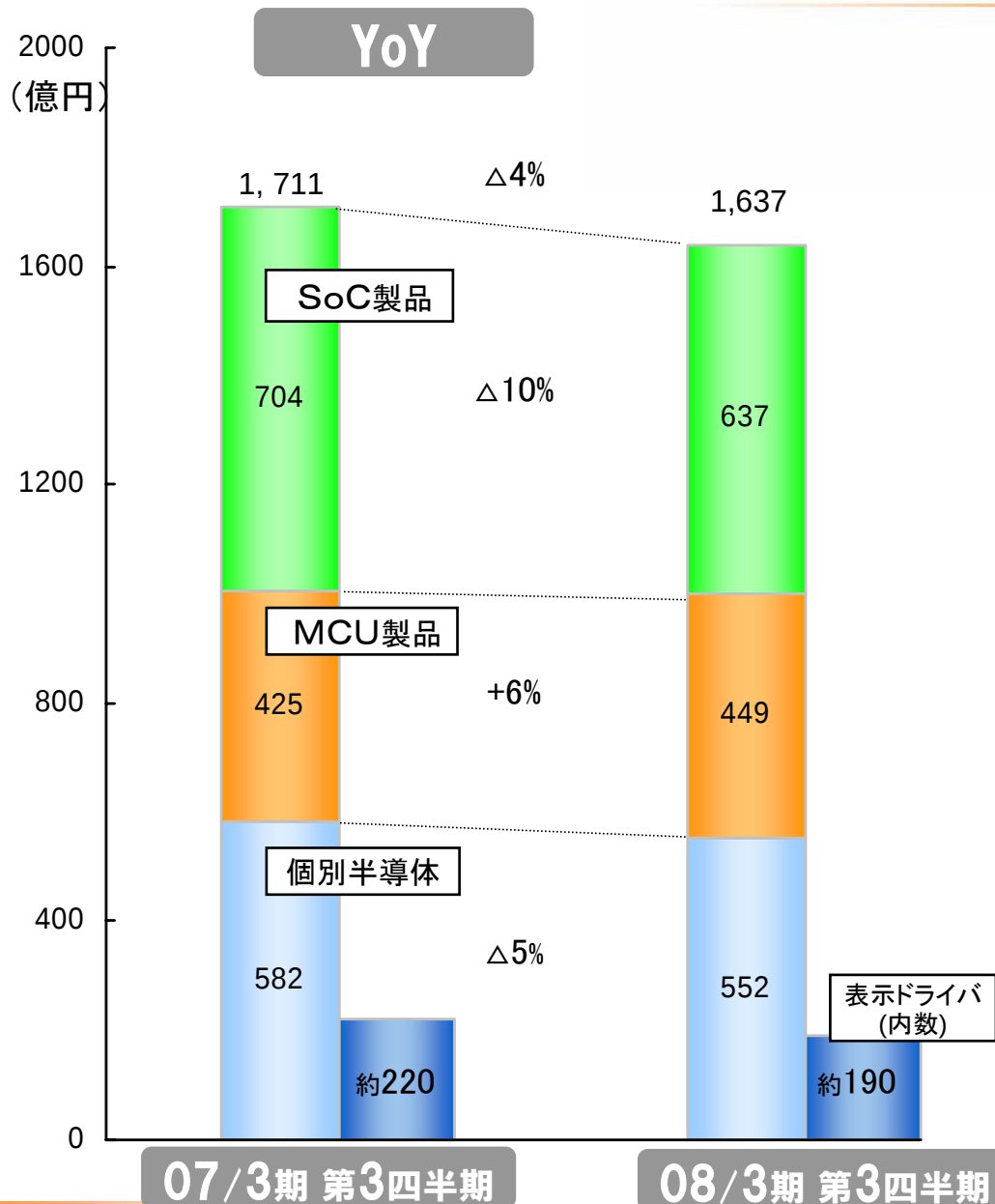
NEC



注: 当社は米国会計基準を採用しておりますが、「営業損益」は売上高から売上原価、研究開発費、販売費および一般管理費を差し引いたものです。

製品別 半導体売上高(前年同期比較)

NEC



主な変化要因

SoC製品

- +) デジタルAV用LSI “EMMA”、DVDドライブ用LSI売上増(青色レーザ対応)
-) デジタルカメラ用LSI、携帯電話用ベースバンドLSIの売上減

MCU製品

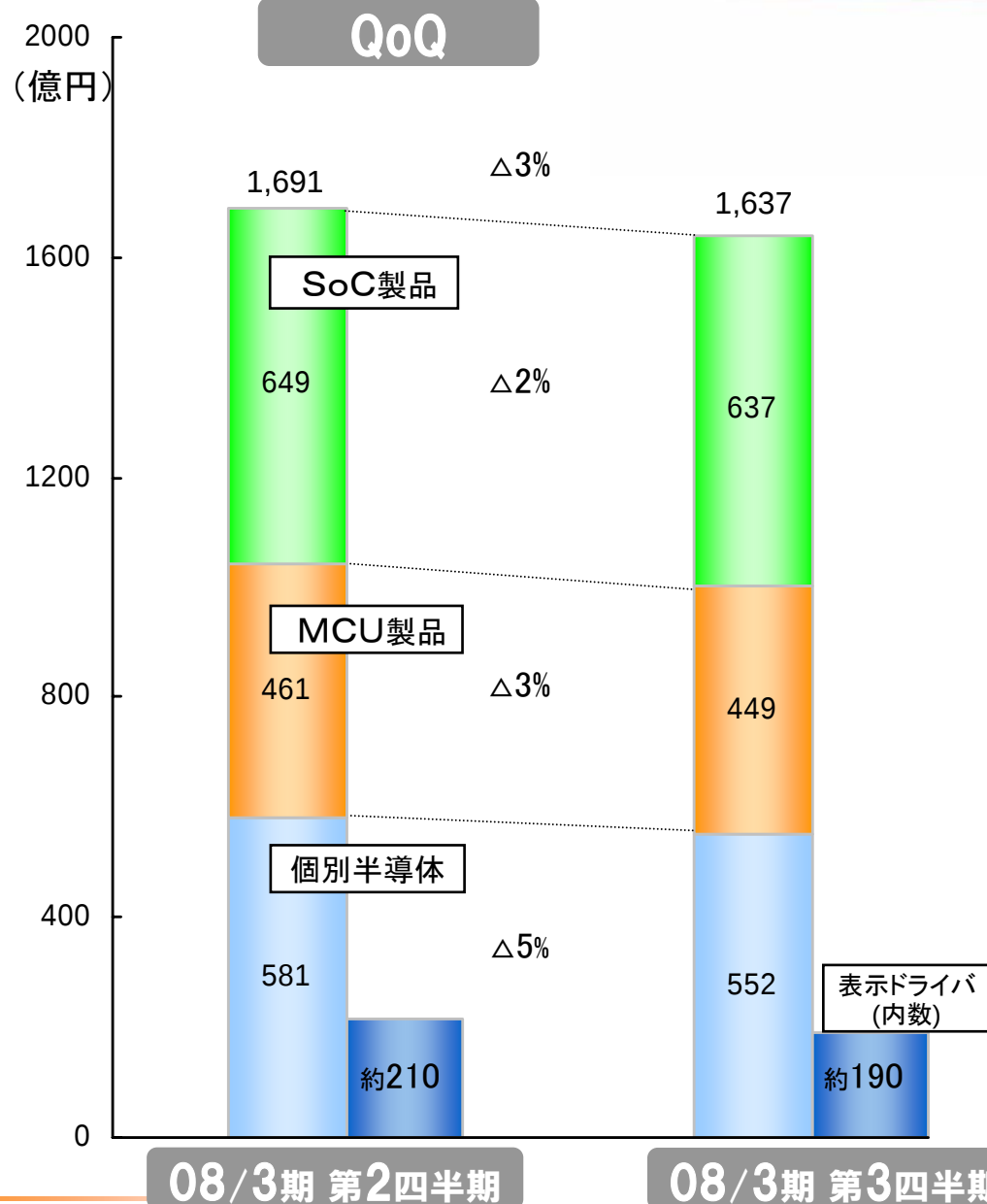
- +) 自動車向け、汎用マイコンとも増収(オールフラッシュマイコンの売上拡大)

個別半導体

- +) パワートランジスタ、光半導体の売上増、
-) 小型LCDドライバの売上減

製品別 半導体売上高（前期比較）

NEC



主な変化要因

SoC製品

- +) デジタルAV用LSI “EMMA”、ゲーム機器向けLSIの売上増
-) 携帯電話向けLSI、デジタルカメラ向けLSIの売上減

MCU製品

- +) 自動車向けマイコンの売上増
-) 一部汎用マイコンで在庫調整あり

個別半導体

- +) 小型LCDドライバは緩やかな回復
-) 大型LCDドライバの売上減

分野別 半導体売上高

NEC

YoY

QoQ

(億円)

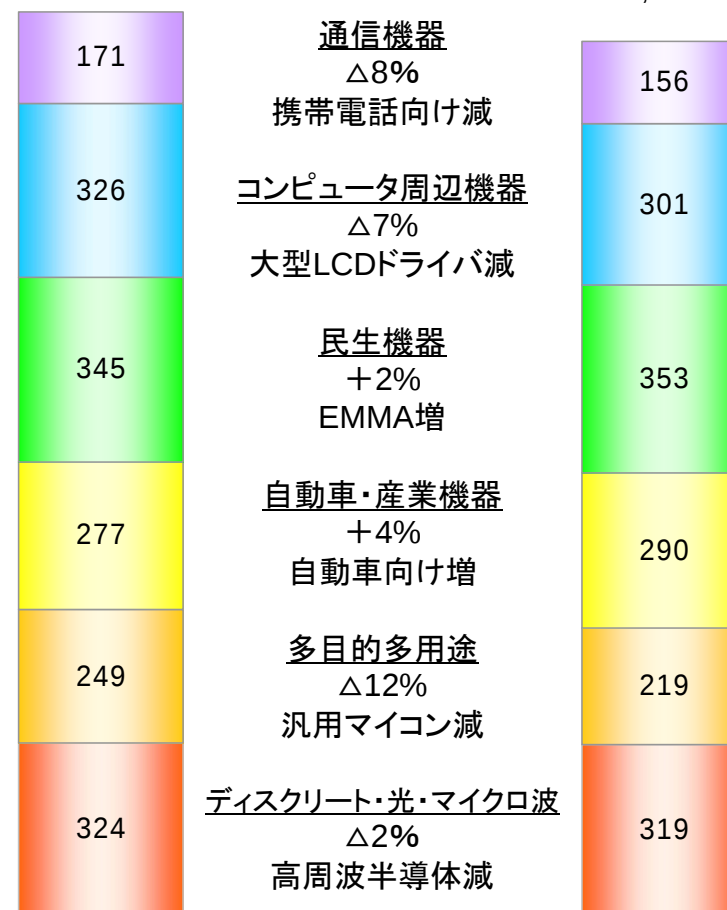
1,711

1,637



1,691

1,637



07/3期 第3四半期

08/3期 第3四半期

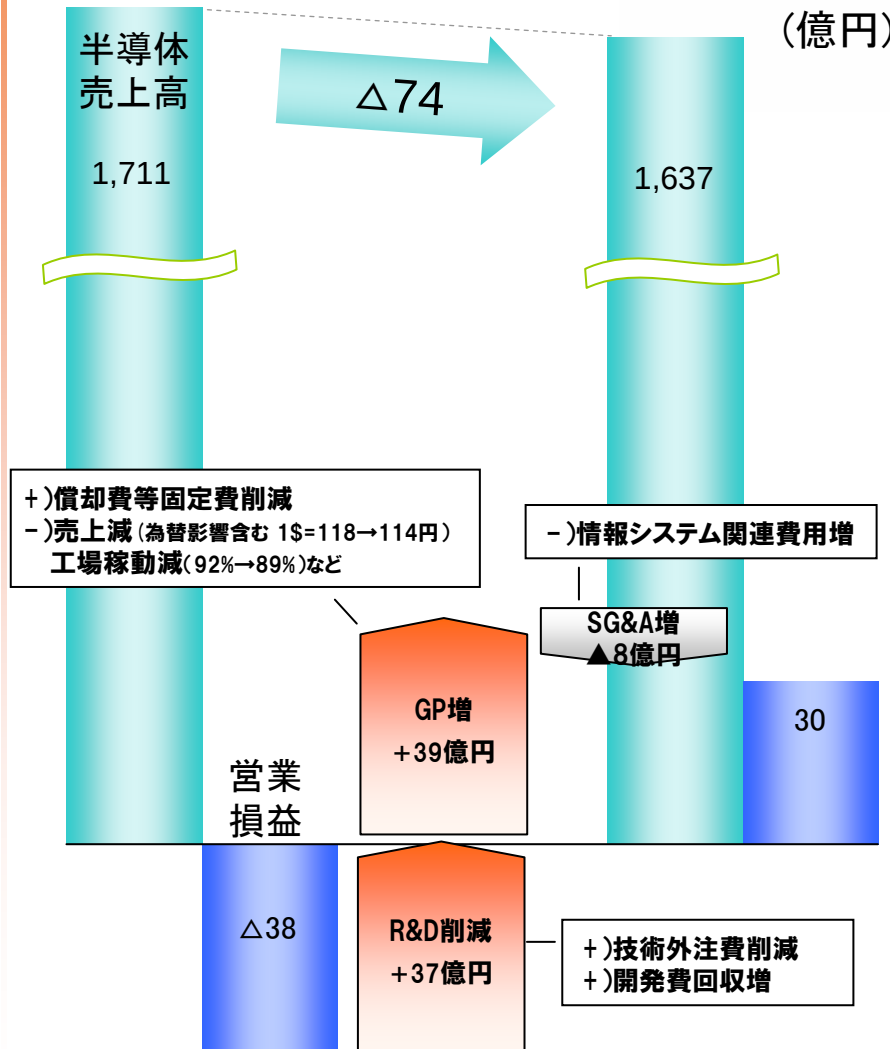
08/3期 第2四半期

08/3期 第3四半期

営業損益の主な増減要因

NEC

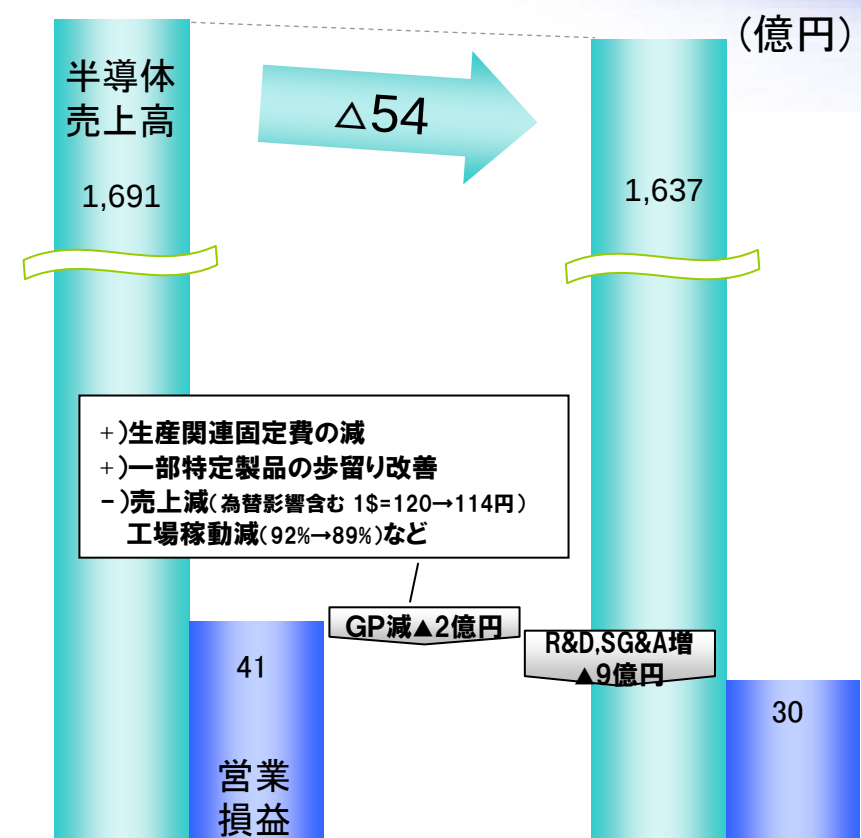
YoY



07/3期 第3四半期

08/3期 第3四半期

QoQ



08/3期 第2四半期

08/3期 第3四半期

営業損益の主な増減要因

(ご参考:9ヶ月累計の前年同期比較)

NEC

YoY



バランスシート

NEC

(単位:億円)		06/12	07/9	07/12
	現金および現金同等物	2,126	1,914	1,889
	受取手形および売掛金	1,051	1,003	926
	たな卸資産	855	802	811
	有形固定資産	3,092	2,825	2,738
	その他の資産	393	336	313
総資産		7,517	6,879	6,676
	支払手形および買掛金	1,507	1,300	1,174
	社債および借入金	1,447	1,329	1,320
	その他の負債	1,570	1,587	1,543
負債		4,524	4,216	4,037
少数株主持分		46	53	51
株主資本		2,948	2,611	2,588
負債、少数株主持分および資本合計		7,517	6,879	6,676

D/Eレシオ(グロス)	0.49倍	0.51倍	0.51倍
株主資本比率	39%	38%	39%

<補足>

繰延税金資産	125	112	108
繰延税金負債	123	137	141

キャッシュ・フロー

NEC

(単位：億円)	07/3期		08/3期		
	3Q	9ヶ月累計	2Q	3Q	9ヶ月累計
営業活動による キャッシュ・フロー	195	541	277	136	428
投資活動による キャッシュ・フロー	△271	△482	△115	△147	△335
フリー・ キャッシュ・フロー	△76	58	162	△10	93

I. 2008年3月期 第3四半期 業績概要

II. 2008年3月期 通期 業績見通し

08年3月期 業績予想

NEC

現時点では通期業績予想を据置くが、
下期での営業黒字維持を最低限とし、引き続き業績改善を目指す

(単位:億円)	07/3期	08/3期			
	年間	9ヶ月累計	年間		
	実績	実績	前回予想 (11月13日)	今回予想	差異
売上高	6,923	5,218	6,900	6,900	0
半導体売上	6,597	4,978	6,700	6,700	0
営業損益	△286	49	0	0	0
税前提損益	△354	35	△100	△100	0
当期純損益	△415	△40	△150	△150	0

為替レート

1US\$=	117円	118円	下期 115円	4Q 115円	
1Euro=	149円	162円	下期 155円	4Q 155円	

注1:当社は米国会計基準を採用しておりますが、「営業損益」は売上高から売上原価、研究開発費、販売費および一般管理費を差し引いたものです

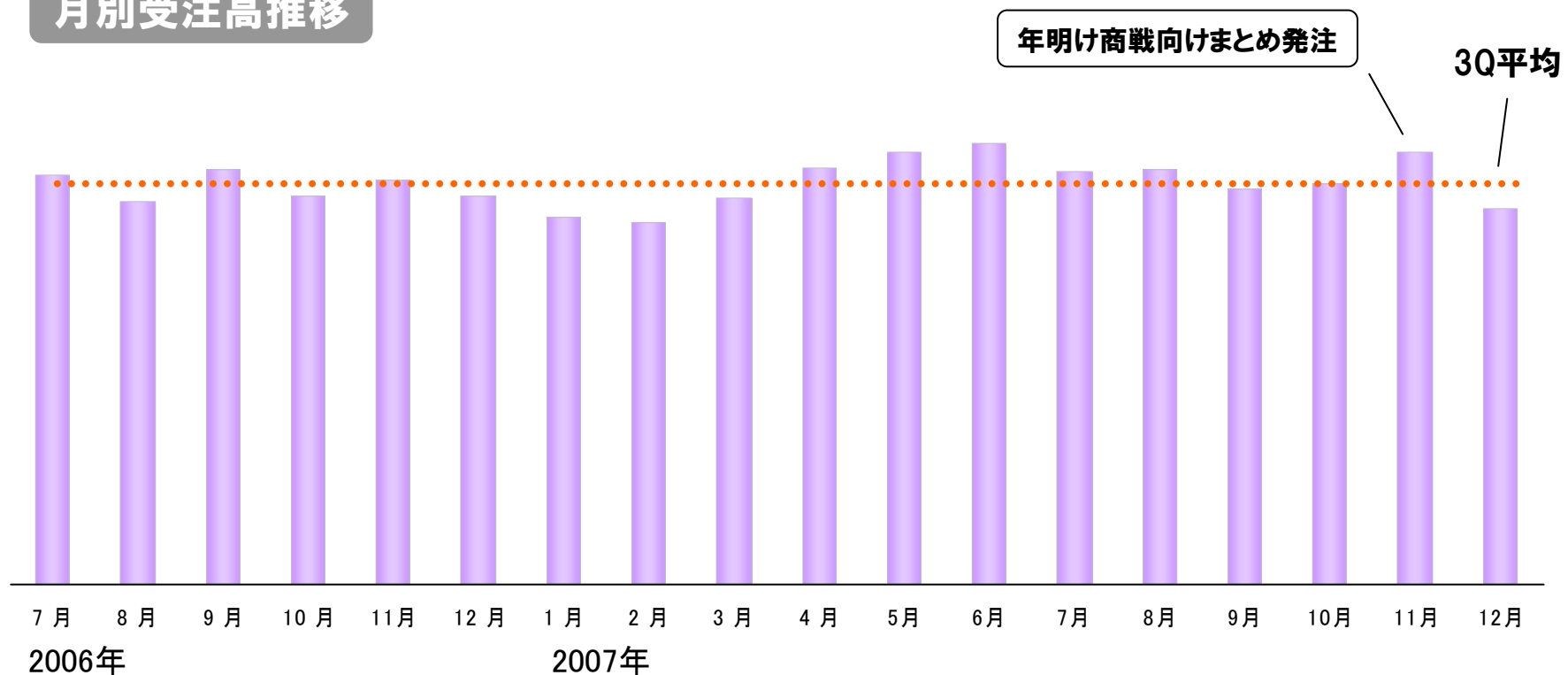
注2:予想値は2008年1月28日現在

半導体受注高の推移

NEC

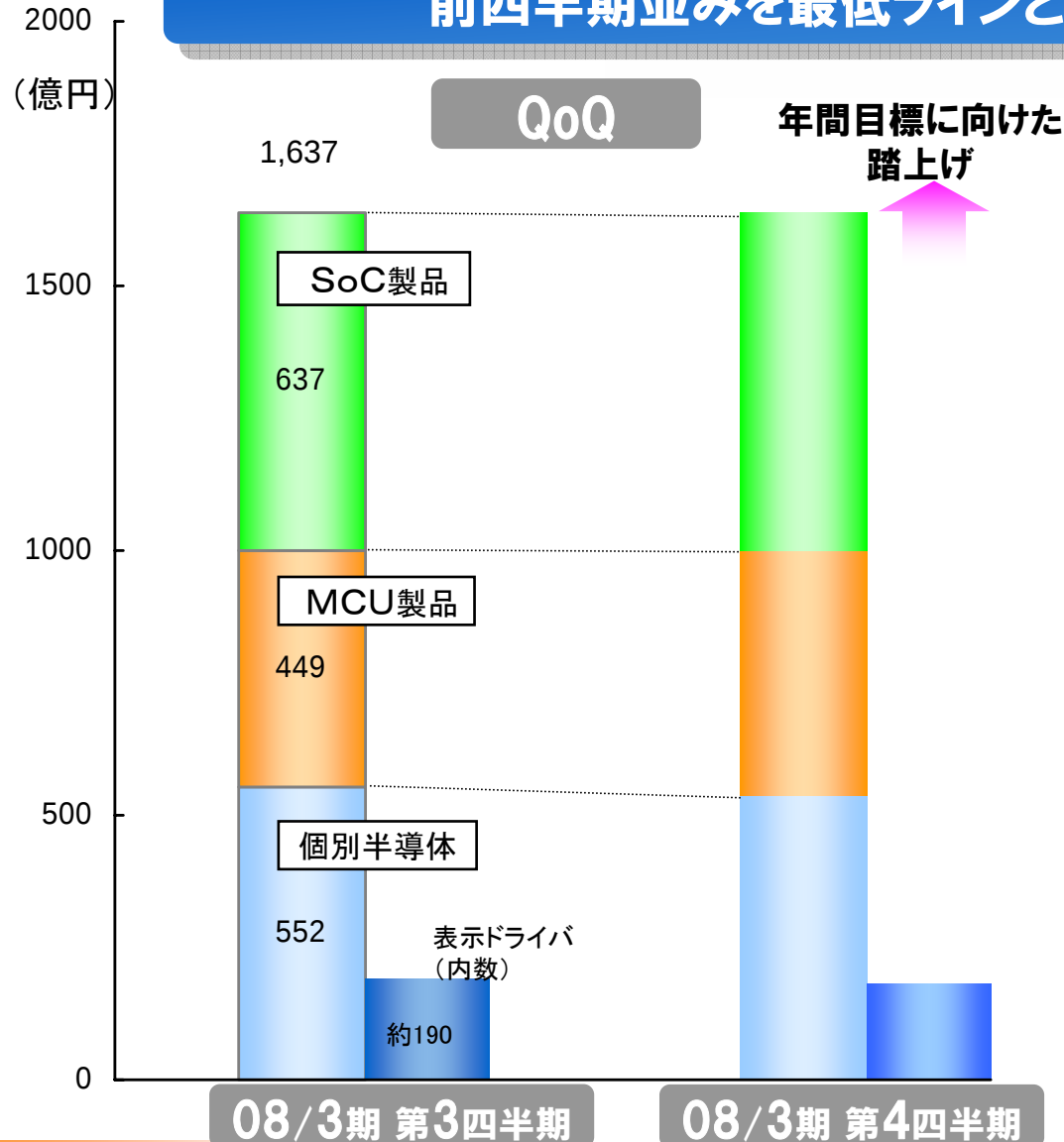
12月は前月反動の影響もあるが、民生・PC分野の一部で弱含み
3Q平均では、ほぼ前四半期並み

月別受注高推移



第4四半期 半導体売上高見込み

前四半期並みを最低ラインとして、売上増を目指す



SoC製品

QoQ 横這い

携帯電話ベースバンドLSIなどの需要増が見込まれるが、一部の民生機器やPC関連機器向けLSIで季節調整の見込み

MCU製品

QoQ 一桁前半パーセントのプラス

自動車MCUは堅調に推移、汎用MCUもゆるやかに回復の見込み

個別半導体製品

QoQ 一桁前半パーセントのマイナス

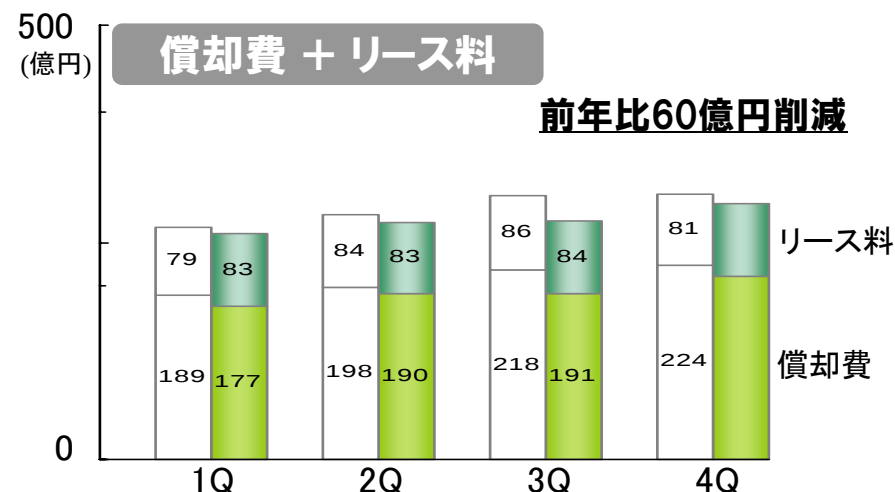
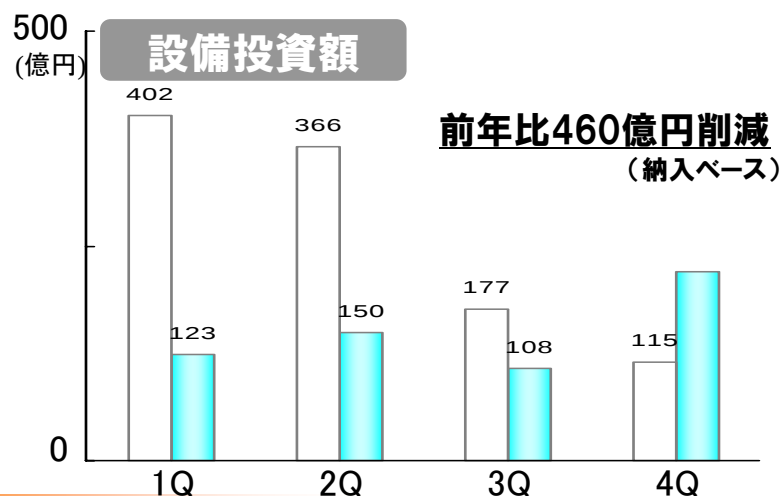
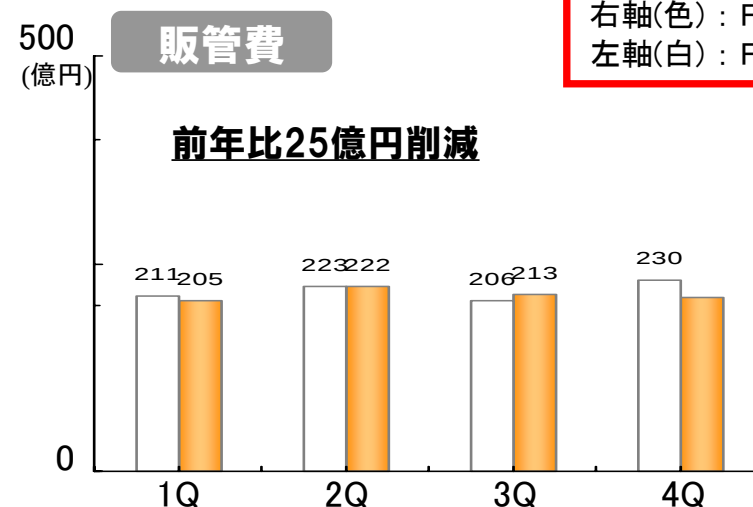
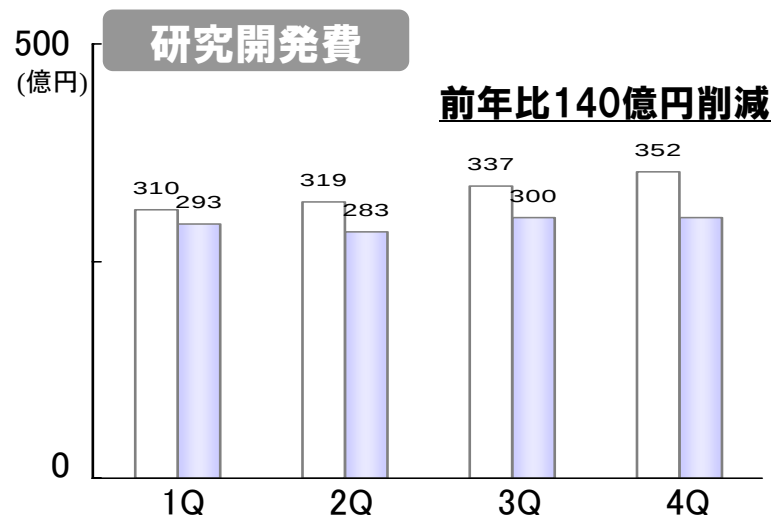
小型LCDドライバは新製品の立ち上がりで増収、大型LCDドライバの減収や一部汎用ディスクリートの調整リスクあり

費用削減の進捗状況

NEC

- 各種固定費削減を着実に実行
- さらなる効率化を進め、当初目標200億円以上の削減を目指す

グラフの凡例
右軸(色) : FY08/3期
左軸(白) : FY07/3期



営業外損益について

第4四半期の構造改革関連費用計上を見込み、年間予想を据置く

(単位: 億円)	07/3期		08/3期			
	年間	9ヶ月累計	第4四半期	年間		
	実績	実績	今回予想	前回予想	今回予想	差異
営業外損益	△68	△14	△86	△100	△100	0
	主な雑収益	フォトマスク事業譲渡 > 当社子会社NECファブサーブのフォトマスク事業を大日本印刷株式会社に譲渡(2007年6月)				
	主な雑損失	インドネシア工場閉鎖費用 > 挿入実装型パッケージ後工程工場 > 2007年11月から清算手続き開始 生産再編関連費用 > 固定資産廃棄・売却損等	インドネシア工場閉鎖費用 生産再編関連費用 訴訟関連費用引当 その他構造改革関連費用			

注1: 当社は米国会計基準を採用しておりますが、「営業損益」は売上高から売上原価、研究開発費、販売費および一般管理費を差し引いたものです

注2: 予想値は2008年1月28日現在

本日のまとめ

NEC

第3四半期は第2四半期に引続き営業黒字を確保

**第4四半期の市況悪化を考慮し現時点では業績予想を据置くが、
下期での営業黒字を最低限として、引続き業績改善を目指す**

NEC

NEC Electronics Corporation

（将来予測に関する注意）

本資料に記載されている当社および連結子会社（以下NECエレクトロニクスと総称します。）の計画、戦略および業績見通しは、将来の予測であって、リスクや不確定な要因を含んでおります。実際の業績等は、様々な要因により、これら見通し等とは大きく異なる結果となりうることをあらかじめご承知願います。実際の業績等に影響を与えうる重要な要因としては、（１）NECエレクトロニクスの事業領域を取り巻く日本、北米、アジア、欧州等の経済情勢、（２）市場におけるNECエレクトロニクスの製品、サービスに対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、（３）激しい競争にさらされた市場においてNECエレクトロニクスが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを供給し続けていくことができる能力、（４）為替レート（特に米ドルと円との為替レート）の変動等がありますが、これら以外にも様々な要因がありえます。また、世界経済の悪化、世界の金融情勢の悪化、国内外の株式市場の低迷等により、実際の業績等が当初の見通しと異なる結果となる可能性もあります。